

私を成長させた 留学

比較文化専修 四回生

西宮 千景

セントラルミシガン大学での十カ月は、充実した日々の中でも自分と戦わなければなりません。日本人を含む周囲の留学生達は英語を自分のものにし、使いこなしていたので、「もっと勉強しなくては」と自分に言い聞かせることでプレッシャーに悩みました。

誰よりも英語に触れるために、チャレンジの日々が始まりました。先生から特別課題を与えてもらったり、カウンセラーに発音指導をしてもらったり、寮に住んでいることを活かして、アメリカ人の友達と遊んだり、ホームステイさせてもらったりしました。とにかく自分が最大限に進歩するためだけに考えました。それでも不安で、真っ暗な道を歩いているようでした。しかし、ある日突然それはやっできたのです。物事を英語で考えられるようにしていると信じられないほど英語が話せるようになってい

ました。勝るときも、英語で理解できるようになっていることに気が付きました。その頃には、周囲の人々も私の発音をとっても誉めてくれるようになり、クラスメートのアメリカ人学生たちが、私に文法の質問をしてくれたりして、不安が自信へと変わっていったのです。振り返ってみると、色々な貴重な体験ができました。人間的にも成長した今の私があるのも支えてくださった大勢の方々の励ましのおかげです。今は、ただ感謝の気持ちでいっぱいです。



一瞬に生きる



ワルシャワ大学
カロリナ・シェブラ

事だと。たまたまのヒトとの出会いのお陰で私は日本の舞踊に興味を持った。山村流の師匠に教えを受けて、その流派の凜とした雰囲気が好きになった。心が和み、「ああ、これこそ日本の文化だなー！」とつくづく思った。

ところが、最近の日本人が欧米に憧れているせいか、山村流みたいな日本独特ものをやっている人は少なくなっている一方だ。とても残念に思う。もしも私が日本人だったら、日本舞踊みたいに大和魂にあふれているものが是非とも世界の人々に知ってもらいたい。

今回の日本での留学は二回目になる。前回は埼玉県のプライベート・スクールで日本語のみだったが、今回は奈良教育大学で私の専攻研究(鎌倉時代仏教)を学んだ。

ひなぶりを舞うとき、一番困ったのはハ文字で歩くことだった。小またごとに注意深く歩きながら、

「現在の一瞬に徹する以外にはない」と師匠に言われたことがある。一瞬、一瞬と積み重ねて踊りとなるのだ。そして、一生となる。



プロダンサーの山村流師匠にはない」と師匠に言われたことがある。一瞬、一瞬と積み重ねて踊りとなるのだ。そして、一生となる。

この一瞬にすべてがあるということを十分に心でわかったら踊りだけではなく、すべての物事はスムーズに

行かはずだ。今回の奈良での留学は私にこういふことを教えてくれた。この考え方をポーランドに持って帰る。宝物として。